

ほうこん

題字・清水英夫



節目のとき
 名誉会長 清水英夫

いろいろな意味で、日本の社会は一つの節目、転換期にさしかかっているように思われます。特にそれはメディアの世界で感じられます。

昨年(2007年)、日本雑誌協会と日本書籍出版協会は、11月に合同で50周年記念会を開催しました。また、映倫(映像管理委員会)も、2月に設立50周年パーティを開きました。

いずれも私が関係している団体ですが、偶然のこととは思われません。そして今年、放送批評懇談会は、創立45年を迎えます。

一方で、制定60年を閲した日本国憲法は、その改正をめぐって暗

雲が立ち込めています。さらに問題なのは、憲法の改正を俟たず、すでに事実上、立法、司法、行政による表現の自由の制約が横行し始めていることでしょう。

その意味でも、放送の役割は、従来以上に極めて重要になってきたと思われれます。放送界の不幸事は、表現の自由制約の絶好の口実になるだけに、放送は良心的な放送人を励まし、放送文化の推進役になることを改めて痛感します。



45周年を迎えた放送の今後
 理事長 志賀信夫

45年間も放送とかかわってくるとは思ってもいなかった。創立時にはこんなに続くと考えたこともなかったし、立ちあげるのが精一杯だった。途中、何度か

2007年12月11日 読売新聞朝刊より

30冊目の「年間テレビベスト作品」を刊行した 志賀 信夫さん 78



撮影・伊藤純一

「テレビの可能性今も信じる」
 つた。ローカル局のドキュメンタリーにも自配したこの地道な出版活動で、2003年度芸術選奨文部科学大臣賞を受けた。膨大なテレビ番組の中から5本を選定し、その台本や制作者の言葉を取り録する。自身の番組から番組のモニターを頼まれ、批評や放送時評を添えてきた。源流社から刊行を始めた1977年度は、山田太一さんの「崖辺のアルバム」、テレビ版の民族誌「すばらしい世界旅行」などを選んだ。

まず10年間を目標にしたものだ。制作者と視聴者が交流を深めた。徳島テレビ祭「日韓中テレビ制作者フォーラム」などの世話役も務めるように、活動領域は広い。続するか迷ったが、『拾った命』と前よりふてぶてしくなり、ライフワークにしようと思った。良くなるためには、自ら行動しな事故のため2年分を1冊にまとめたので、30冊出さず31年かき。(編集委員 鈴木嘉一)

顔

志賀信夫さん

ギャラクシー賞 マイベストTV賞 2007年12月度 投票について

ギャラクシー賞マイベストTV賞2007年12月度作品の投票は2008年1月8日に開始します。正会員の皆さまには、年明け1月7日にメールまたはファクスで送付します。当会ウェブサイト (<http://www.houkon.jp>) または「正会員専用 投票用紙」でマイベストTV賞の投票にご参加ください。

マイベストTV賞 携帯サイト、 オープンしました！ 投票もこちらから！

<http://www.houkon.jp/m>



ギャラクシー賞 マイベストTV賞 月間ノミネート番組発表！

- 10月度
- ・連続テレビ小説「ちりとてちん」NHK
 - ・土曜ドラマ「ジャッジ・島の裁判官奮闘記」NHK
 - ・医龍 Team Medical Dragon2 フジテレビ

2008年2月20日開催 放送シンポジウム2008 プログラム決定しました！

詳しくは同封チラシをご覧のうえ、奮ってご参加ください！

会議記録

12月
5日	グラントデザイン小委員会
7日	選奨・ラジオ定例会
17日	出版編集委員会
19日	選奨・CM定例会
21日	理事会
26日	選奨・テレビ月評会

投稿のお願い
 会報「ほうこん」では、会員の皆さまのご意見を反映させるため「投稿欄」を設けております。どんなご意見でもかまいませんので、ぜひご投稿ください。投稿の字数は400字程度でお願いします。Eメール(houkon@houkon.jp)もしくはファクス(03-5379-5510)にてお送りください。お待ちしています。(事務局)